

サイドバックの素材がブラジリアンローズウッドのギターはやはりレスポンスが違います。ブラジリアンローズウッドは別名ハカランダという学術名で呼ばれて、珍重される高級品です。ボディが小さいギターは高音がきれいなので、ウォーターイズワイドの多重録音の時にこのギターがカポ4フレットで高音を担当しています。

ギターの調整について

アコースティックギターは買ったならそのまま OK という楽器ではなく、演奏性やバランスの良い響きを求めるとどうしてもチューンアップする必要が生じてきます。ナットとサドルの調整は最終的に自分でしますが、ネックの部分はどうしてもプロの技術に頼ることが多いです。ネックがわずかに狂った時でも信頼できる調整をしてくれる工房があります。今回使用のラリヴィーとマーチンのネックはアンフィニのお世話になりました。 アンフィニ カスタムワークス info@enfini-customworks.com

アルバムタイトルについて

アルグムというタイトルについてよく質問されますが、これは聖書の中に出て来る、古代イスラエルにあった木材の名前です。賢王ソロモンはオフイルという都市から運ばれて来たアルグムの材木を使い、たて琴と弦楽器を造ったがそれに匹敵するものはなかったと言われていました。推測の域を出ませんが、アルグムは紫檀つまり、ローズウッドだったのではないと言われていました。しかし、オフイルは輸入など交易が盛んだった地域なので、よそからの輸入木材の可能性もあります。比較的に近いアフリカのマダガスカル・ローズウッドなのか・・・まさか南米のブラジリアン・ローズウッド・・・それとも・・・。こんな事をいろいろ考えると楽しいのはギターオタクだからでしょう。

新岡大 ギタープロフィール

中学時代にギターがクラスで流行り、フォークギターから始める。すぐにテクニックを追求するようになり、中川イサト、岡崎倫典などの鉄弦のアコギソロを演奏するようになる。元から教えたがりの性格のためかギター講師になる。現在大手楽器店ギター講師の他、カルチャースクール講師をしているかたわら、「新岡ギター教室 WEB」を通して、ピックアップ開発や販売、アコギの調整から何から役立つ情報を発信している。演奏活動ではギターオタクセミナーを開催しており、「普通のライブよりもずっと面白い」と評判を得ている。 WEB は「新岡ギター」で検索。

10 Windy and Warm

作曲は John D.Loudermilk ですが、有名になったのは盲目のカントリーギタリスト Doc Watson が取り上げたバージョンではないかと思えます。ドック・ワトソンのような跳ねるリズムの泥臭い感じとトミー・エマニュエルが弾くような少しロック的なアプローチを混ぜてみました。アメリカンサウンドなのでテイラーGS を使用。

11 The Water Is Wide -solo-

1 曲目にも出て来たのですが、音質をソロギター用に少し調整してあります。ソロにするとより素朴なメロディーが引き立ちますね。こういう曲は本当にアコギに似合いますね。

12 Shadowy Key

中川イサト作曲。私がギターオタクの世界に足を踏み入れた時に衝撃を受けたのがこの曲でした。オープンチューニングで 6 弦は C まで下がります。これまで何度かアレンジに挑戦したのですが、原曲の完成度が非常に高く、何度変えても良くなったとは言えませんでした。それで、方向を転換してイントロ部分を作曲して付け足すというアレンジになりました。やはり巨匠中川イサトですね。

13 Everything

20 世紀最後のミリオンヒットと言われる MISIA の歌です。MISIA がドラマの内容を見てから作詞したようでドラマに完全にマッチした素晴らしい主題歌でした。その頃、友人の結婚式での演奏のために新婦からリクエストされアレンジしましたが、今聞いてもいい曲、そしていいアレンジです。この歌の感動をソロギターでも伝えられたらいいなと思います。

使用ギターについて

Larrivee L-10 1970 年代製

カナダのラリヴィーは左右対称のノンスキャロッププレイングというユニークな設計で年数が経つほどにその音は良くなっていきます。かなりの変則チューニングでも音が濁らずキレイに響くという点で際立って優れています。すでに 30 年経ったビンテージラリヴィーのサウンドはローズウッドですが、低音の厚みと深みがあり、同時に高音の艶も素晴らしく、手放せない一本です。曲の解説に特に記載がないものはすべてこのラリヴィーで演奏しています。

テイラーGSRS 2006 製

テイラーはコンピューターの工作機械や UV 塗装など最新技術を取り入れて製造されているアメリカンギターです。以前からネックのフィーリングは業界でも No1 と言われるほどでしたが、このモデルは音色でも素晴らしいと思ったテイラーです。低音の厚みから高音のキラキラ感までバランスが良く、まだ若い音ですが、それでも十分に音楽的に使えると思いました。

マクロイギタース A35C

ローデンの工房から分かれた Mr マクロイが作るギターはアイルランドのローデンギターに良く似た設計を持っていて、テンション感が程よくボディが良く鳴って新しいギターらしくらぬ、切れ味と深みがあります。ギターにはメーカー製と手工品がありますが、良い素材を使い手間暇かけて作った手工ギターは、確かにメーカーが真似の出来ない良さがあります。ギターの値段から考えると驚くべきコストパフォーマンスです。 マクロイギタース 日本代理店 スタジオ M <http://www.studio-m.net/>

マーチン 000-28 カスタムブラジリアン 1997 年製

曲目解説

1 The Water Is Wide

多くのミュージシャンがカバーしているアメリカン・トラディショナル。シンプルで美しいメロディーを意識してアレンジし、メインギターの音にマーチン 00028 カスタムブラジリアンというギターを使った多重録音です。2本のギターはカポタストの位置をずらして使うことで音色の幅を広げて、気持ちの良い音に包まれるような感じの癒し系サウンドに仕上がったと思います。

2 Anji

作曲はブリティッシュフォークの Davy Graham ですが、Paul Simon がアルバム「サウンド・オブ・サイレンス」に収録した事で世界的に有名になった曲です。「これが弾けた人はギタリストになり、弾けない人はシンガーになった」と良く言われます。これをさらにアレンジし直してサイモンバージョンよりさらに緊張感を出したいと思いました。

3 Over The Rainbow

同じ赤坂工芸レーベルの韓国系女流ピアニストでバークレー講師でもある Hey Rim Jeon の CD を聞き、一つひとつの音を大切に、響きを楽しむような演奏にインスパイアされてアレンジしました。弦が響き合う、間の美しさがあるアレンジが出来たかなと思います。

4 夜空ノムコウ

スマップのミリオンヒットで有名ですが、私の中のイメージはスガ・シカオバージョンの方です。歌っているイメージで弾きたいですね。

5 Hey Hey

オリジナルは Big Bill Bronzy のブルースですが、Eric Clapton がアコギ名盤「unplugged」の中に歌入りで取り上げ有名になった曲です。ブルースフィーリングを活かしてソロギターにアレンジしました。使用ギターはテイラーGS で、こういう曲にはアメリカンサウンドのギターが似合いますね。

6 Tears In Heaven

Eric Clapton のグラミー受賞のヒット曲で、幼くして亡くした息子へのメッセージが込められた美しいバラードです。アコギ名盤「unplugged」のアコースティックアレンジの方が有名かもしれないですね。技術的にはスライド、グリッサンド、ハンマリングなどを多用して歌っているような雰囲気再現しています。

7 Scarborough Fair

サイモン&ガーファングルのヒット曲で、アイルランド民謡を元に作られたものです。Mcilroy Guitars A35C というギターを使用しましたが、同じアイルランドの有名なローデンギターと良く似たモデルです。アレンジは原曲の雰囲気を残すように出来たかなと思います。シダー&ローズの湿った感じの音色が曲の雰囲気に合っていると思います。

8 大きな古時計

1876年のアメリカン・トラディショナルで、作詞作曲はフォスターと並ぶと言われる、Henry Clay Work です。日本では平井堅の歌のイメージの方が強いですが、曲の最後は古時計が12時を刻むような感じを出してみました。イントロを数小節作ったのですが、自分でも気に入っています。

9 さくら

さくらという曲は沢山ありますが、これは森山直太郎の曲です。卒業シーズンになると聞きたくなるような曲ですね。

アコースティックギターCDの音質について

アーティストのライブで感動して、その人のCDを買って聞いてみたら「あまりの違いにがっかりだった」という話を良く聞きます。私も一般のアコースティックギターのCDを聞くとまるで「記録写真」のように感じる場合があります。

「記録写真」的に録音されたCDから出る音は、アコギの感動的な生演奏とは別物で、情報が間引きされたMP3のように平面的な音に感じられます。こういうギターの感動を伝えきれないアコギCDが多いのはギターオタクとしてはとても残念です。

もっと感動を伝える芸術作品としての「音楽的なアコギCD」を作ることは出来ないのでしょうか。考えてみるとアコースティックギターが世界中で愛される一番の理由は間違いなくその音色の美しさにあると思うんです。アコギの生音には人を感動させる力があります。深い低音からきらびやかな高音を奏でる表現力があり、演奏者の技術が高ければ、聴衆にまるで歌を聞いているような気持ちにさせることも出来ます。

実はアコースティックギターは3次元音響なのです。立体音響的に音がいろんな方向へ放射されています。まずは弾いた弦そのものが振動しネック側からツイーターのように高音を出します。次にその弦振動はサドルを通して表板全体を鳴らします。この表板の下部はウーハーのように低音を作り出しています。さらに、表板の振動で中の空気が動かされ裏板が振動し、それで動かされたボディ内の空気がちょうど中域のスコーカーのようにサウンドホールからあふれ出て来ます。この時ギターは裏板も振動して裏側にも音を放出していますので、その音はリバーブのように深みのある残響を作り出します。このように複雑なくつもの音色が3次的に絡み合っアコースティックギターの魅力的な音色を作り出していたのです。

ライブでピックアップを使って会場のモニタースピーカーから大きな音で出力すると、上記の複雑な音色すべてを再現するのは困難なので、ライブでのアコギの音は、生音とはちょっと違う電氣的なリバーブ(残響)を使って余韻を加えた「ライブ的に良い音」に仕上げ、ライブで感動できる音色を作るのが最近の主流になっています。(感動するピックアップサウンドについては私のWEB(<http://dnaguitar.web.fc2.com/>)にさらに詳しくありますので興味がある方はぜひご覧ください。)このようにアコギには「生音」と「ライブの音」が存在しますが、アコギの生音は本来感動的ですし、ライブの音もすでに研究されていて美しい音色を作る事が可能です。それで今、問題は3つ目の「アコギCDの音」ではないかと思うのです。

感動的な音色にこだわるギターオタクとしては「記録写真」的な録音方法の概念を捨てて、なんとかアコギが本来持っている立体音響の感動をCDにも詰め込めないかどうかを赤坂工芸と共に考えました。そのためには、マイクケーブルの品質や、PCケーブルの長さ、電源タップなどもこだわりましたし、最終的なトラックダウンにおいても、わずかな違いを的確に補正出来るエンジニアの耳とアコギの音色にこだわるギターオタクの感性が必要でした。そのような努力の結果として今回のアルグム2はアコギが本来持っている美しく立体的な音色を感じる事が出来る音楽的なアコギCDを製作できたと思っています。このCDを聞いてギターを弾く人も弾かない人も音が出た瞬間に「ギターの音色っていいですね」と思っただけならギターオタクとしてはとてもうれしく思います。

アコースティックギターCDの音質について

アーティストのライブで感動して、その人のCDを買って聞いてみたら「あまりの違いにがっかりだった」という話を良く聞きます。私も一般のアコースティックギターのCDを聞くとまるで「記録写真」のように感じる場合があります。

「記録写真」的に録音されたCDから出る音は、アコギの感動的な生演奏とは別物で、情報が間引きされたMP3のように平面的な音に感じられます。こういうギターの感動を伝えきれないアコギCDが多いのはギターオタクとしてはとても残念です。

もっと感動を伝える芸術作品としての「音楽的なアコギCD」を作ることは出来ないのでしょうか。考えてみるとアコースティックギターが世界中で愛される一番の理由は間違いなくその音色の美しさにあると思うんです。アコギの生音には人を感動させる力があります。深い低音からきらびやかな高音を奏でる表現力があり、演奏者の技術が高ければ、聴衆にまるで歌を聞いているような気持ちにさせることも出来ます。

実はアコースティックギターは3次元音響なのです。立体音響的に音がいろんな方向へ放射されています。まずは弾いた弦そのものが振動しネック側からツイーターのように高音を出します。次にその弦振動はサドルを通して表板全体を鳴らします。この表板の下部はウーハーのように低音を作り出しています。さらに、表板の振動で中の空気が動かされ裏板が振動し、それで動かされたボディ内の空気がちょうど中域のスコーカーのようにサウンドホールからあふれ出て来ます。この時ギターは裏板も振動して裏側にも音を放出していますので、その音はリバーブのように深みのある残響を作り出します。このように複雑なくつもの音色が3次的に絡み合っアコースティックギターの魅力的な音色を作り出していたのです。

ライブでピックアップを使って会場のモニタースピーカーから大きな音で出力すると、上記の複雑な音色すべてを再現するのは困難なので、ライブでのアコギの音は、生音とはちょっと違う電氣的なリバーブ(残響)を使って余韻を加えた「ライブ的に良い音」に仕上げ、ライブで感動できる音色を作るのが最近の主流になっています。(感動するピックアップサウンドについては私のWEB(<http://dnaguitar.web.fc2.com/>)にさらに詳しくありますので興味がある方はぜひご覧ください。)このようにアコギには「生音」と「ライブの音」が存在しますが、アコギの生音は本来感動的ですし、ライブの音もすでに研究されていて美しい音色を作る事が可能です。それで今、問題は3つ目の「アコギCDの音」ではないかと思うのです。

感動的な音色にこだわるギターオタクとしては「記録写真」的な録音方法の概念を捨てて、なんとかアコギが本来持っている立体音響の感動をCDにも詰め込めないかどうかを赤坂工芸と共に考えました。そのためには、マイクケーブルの品質や、PCケーブルの長さ、電源タップなどもこだわりましたし、最終的なトラックダウンにおいても、わずかな違いを的確に補正出来るエンジニアの耳とアコギの音色にこだわるギターオタクの感性が必要でした。そのような努力の結果として今回のアルグム2はアコギが本来持っている美しく立体的な音色を感じる事が出来る音楽的なアコギCDを製作できたと思っています。このCDを聞いてギターを弾く人も弾かない人も音が出た瞬間に「ギターの音色っていいですね」と思っただけならギターオタクとしてはとてもうれしく思います。

曲目解説

1 The Water Is Wide

多くのミュージシャンがカバーしているアメリカントラディショナル。シンプルで美しいメロディーを意識してアレンジし、メインギターの音にマーチン 00028 カスタムブラジリアンというギターを使った多重録音です。2本のギターはカポタストの位置をずらして使うことで音色の幅を広げて、気持ちの良い音に包まれるような感じの癒し系サウンドに仕上がったと思います。

2 Anji

作曲はブリティッシュフォークの Davy Graham ですが、Paul Simon がアルバム「サウンド・オブ・サイレンス」に収録した事で世界的に有名になった曲です。「これが弾けた人はギタリストになり、弾けない人はシンガーになった」と良く言われます。これをさらにアレンジし直してサイモンバージョンよりさらに緊張感を出したいと思いました。

3 Over The Rainbow

同じ赤坂工芸レーベルの韓国系女流ピアニストでバークレー講師でもある Hey Rim Jeon の CD を聞き、一つひとつの音を大切に、響きを楽しむような演奏にインスパイアされてアレンジしました。弦が響き合う、間の美しさがあるアレンジが出来たかなと思います。

4 夜空ノムコウ

スマップのミリオンヒットで有名ですが、私の中のイメージはスガ・シカオバージョンの方です。歌っているイメージで弾きたいですね。

5 Hey Hey

オリジナルは Big Bill Bronzy のブルースですが、Eric Clapton がアコギ名盤「unplugged」の中に歌入りで取り上げ有名になった曲です。ブルースフィーリングを活かしてソロギターにアレンジしました。使用ギターはテイラーGS で、こういう曲にはアメリカンサウンドのギターが似合いますね。

6 Tears In Heaven

Eric Clapton のグラミー受賞のヒット曲で、幼くして亡くした息子へのメッセージが込められた美しいバラードです。アコギ名盤「unplugged」のアコースティックアレンジの方が有名かもしれないですね。技術的にはスライド、グリッサンド、ハンマリングなどを多用して歌っているような雰囲気再現しています。

7 Scarborough Fair

サイモン&ガーファングルのヒット曲で、アイルランド民謡を元に作られたものです。Mcilroy Guitars A35C というギターを使用しましたが、同じアイルランドの有名なローデンギターと良く似たモデルです。アレンジは原曲の雰囲気を残すように出来たかなと思います。シダー&ローズの湿った感じの音色が曲の雰囲気に合っていると思います。

8 大きな古時計

1876年のアメリカントラディショナルで、作詞作曲はフォスターと並ぶと言われる、Henry Clay Work です。日本では平井堅の歌のイメージの方が強いですが、曲の最後は古時計が12時を刻むような感じを出してみました。イントロを数小節作ったのですが、自分でも気に入っています。

9 さくら

さくらという曲は沢山ありますが、これは森山直太郎の曲です。卒業シーズンになると聞きたくなるような曲ですね。

10 Windy and Warm

作曲は John D.Loudermilk ですが、有名になったのは盲目のカントリーギタリスト Doc Watson が取り上げたバージョンではないかと思えます。ドック・ワトソンのような跳ねるリズムの泥臭い感じとトミー・エマニュエルが弾くような少しロック的なアプローチを混ぜてみました。アメリカンサウンドなのでテイラーGS を使用。

11 The Water Is Wide -solo-

1 曲目にも出て来たのですが、音質をソロギター用に少し調整してあります。ソロにするとより素朴なメロディーが引き立ちますね。こういう曲は本当にアコギに似合いますね。

12 Shadowy Key

中川イサト作曲。私がギターオタクの世界に足を踏み入れた時に衝撃を受けたのがこの曲でした。オープンチューニングで 6 弦は C まで下がります。これまで何度かアレンジに挑戦したのですが、原曲の完成度が非常に高く、何度変えても良くなったとは言えませんでした。それで、方向を転換してイントロ部分を作曲して付け足すというアレンジになりました。やはり巨匠中川イサトですね。

13 Everything

20 世紀最後のミリオンヒットと言われる MISIA の歌です。MISIA がドラマの内容を見てから作詞したようでドラマに完全にマッチした素晴らしい主題歌でした。その頃、友人の結婚式での演奏のために新婦からリクエストされアレンジしましたが、今聞いてもいい曲、そしていいアレンジです。この歌の感動をソロギターでも伝えられたらいいなと思えます。

使用ギターについて

Larrivee L-10 1970 年代製

カナダのラリヴィーは左右対称のノンスクワロッププレイングというユニークな設計で年数が経つほどにその音は良くなっていきます。かなりの変則チューニングでも音が濁らずキレイに響くという点で際立って優れています。すでに 30 年経ったビンテージラリヴィーのサウンドはローズウッドですが、低音の厚みと深みがあり、同時に高音の艶も素晴らしく、手放せない一本です。曲の解説に特に記載がないものはすべてこのラリヴィーで演奏しています。

テイラーGSRS 2006 製

テイラーはコンピューターの工作機械や UV 塗装など最新技術を取り入れて製造されているアメリカンギターです。以前からネックのフィーリングは業界でも No1 と言われるほどでしたが、このモデルは音色でも素晴らしいと思ったテイラーです。低音の厚みから高音のキラキラ感までバランスが良く、まだ若い音ですが、それでも十分に音楽的に使えると思えました。

マクロイギタース A35C

ローデンの工房から分かれた Mr マクロイが作るギターはアイルランドのローデンギターに良く似た設計を持っていて、テンション感が程よくボディが良く鳴って新しいギターらしくらぬ、切れ味と深みがあります。ギターにはメーカー製と手工品がありますが、良い素材を使い手間暇かけて作った手工ギターは、確かにメーカーが真似の出来ない良さがあります。ギターの値段から考えると驚くべきコストパフォーマンスです。 マクロイギタース 日本代理店 スタジオ M <http://www.studio-m.net/>

マーチン 000-28 カスタムブラジリアン 1997 年製

サイドバックの素材がブラジリアンローズウッドのギターはやはりレスポンスが違います。ブラジリアンローズウッドは別名ハカランダという学術名で呼ばれて、珍重される高級品です。ボディが小さいギターは高音がきれいなので、ウォーターイズワイドの多重録音の時にこのギターがカポ4フレットで高音を担当しています。

ギターの調整について

アコースティックギターは買ったならそのまま OK という楽器ではなく、演奏性やバランスの良い響きを求めるとどうしてもチューンアップする必要が生じてきます。ナットとサドルの調整は最終的に自分でしますが、ネックの部分はどうしてもプロの技術に頼ることが多いです。ネックがわずかに狂った時でも信頼できる調整をしてくれる工房があります。今回使用のラリヴィーとマーチンのネックはアンフィニのお世話になりました。 アンフィニ カスタムワークス info@enfini-customworks.com

アルバムタイトルについて

アルグムというタイトルについてよく質問されますが、これは聖書の中に出て来る、古代イスラエルにあった木材の名前です。賢王ソロモンはオフイルという都市から運ばれて来たアルグムの材木を使い、たて琴と弦楽器を造ったがそれに匹敵するものはなかったと言われていました。推測の域を出ませんが、アルグムは紫檀つまり、ローズウッドだったのではないと言われていました。しかし、オフイルは輸入など交易が盛んだった地域なので、よそからの輸入木材の可能性もあります。比較的に近いアフリカのマダガスカル・ローズウッドなのか・・・まさか南米のブラジリアン・ローズウッド・・・それとも・・・。こんな事をいろいろ考えると楽しいのはギターオタクだからでしょう。

新岡大 ギタープロフィール

中学時代にギターがクラスで流行り、フォークギターから始める。すぐにテクニックを追求するようになり、中川イサト、岡崎倫典などの鉄弦のアコギソロを演奏するようになる。元から教えたがりの性格のためかギター講師になる。現在大手楽器店ギター講師の他、カルチャースクール講師をしているかたわら、「新岡ギター教室 WEB」を通して、ピックアップ開発や販売、アコギの調整から何から役立つ情報を発信している。演奏活動ではギターオタクセミナーを開催しており、「普通のライブよりもずっと面白い」と評判を得ている。 WEB は「新岡ギター」で検索。